

## 大豆の早播栽培

県農業試験場 畑作部(現、農研センター農産園芸研究所作物部)

### 研究のねらい

本県の大豆の播種適期は、7月上旬から7月中旬の間であるが、この時期は梅雨の末期にあたり、集中豪雨の発生頻度が高いので、転換畑では播種作業が安定的に行えない。このため、晩播となって植物体が大きくなり低収となり、収量が安定しない大きな原因となっている。そのため、天候が比較的安定し、計画的に播種作業が行える梅雨前に大豆を播種する早播栽培の試験を行った。

### 研究の成果

1. 早播栽培に使用する品種は、現在県下に広く普及しているフクユタカが適している。次図のように、平坦地から中山間地では6月上旬、山間高冷地では5月中旬に播種することによって、標準播栽培程度の10a当り300kgの収量が期待できる。したがって、播種の準備を早めに行い上記の時期になったら天候や田植等の他の農作業をみながら早めに播種することが重要である。
2. 早播栽培におけるフクユタカの栽植密度は平坦地・中山間地、山間高冷地とも10a当たり8,000～11,000本が適当で、湿潤あるいは肥沃な圃場では疎植とする。
3. 早播栽培では標準播栽培に比べて、大豆の生育量が2～3倍となるので培土を徹底して倒伏防止に努める必要がある。培土は、倒伏防止や雑草に対して有効であるばかりでなく、梅雨時では停滞水の排水路や、梅雨明け後の干ばつに際しては畦間灌水の灌水路となる。
4. 早播栽培では、開花期が標準播栽培の8月下旬よりも早く8月上旬となり、着莢期がカメムシ等の莢実害虫の発生盛期と重なるので、ハスモンヨトウ等の食葉性害虫の発生が少なくてもこの頃から防除を開始する。

山間高冷地	6.22	8.13		11.4
	52日(100)		83日(100)	
平坦地	5.14	7.31		10.27
	78日(150)		88日(106)	
平坦地	7.18	8.25		11.7
	38日(100)		74日(100)	
平坦地	7.4	8.16		10.30
	43日(113)		75日(101)	
平坦地	6.6	8.1		10.24
	56日(147)		86日(114)	

上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上			
5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月
...播種期			...開花期			...成熟期			( )は対標準播比(%)									

図1 フクユタカの播種期と生育ステージ

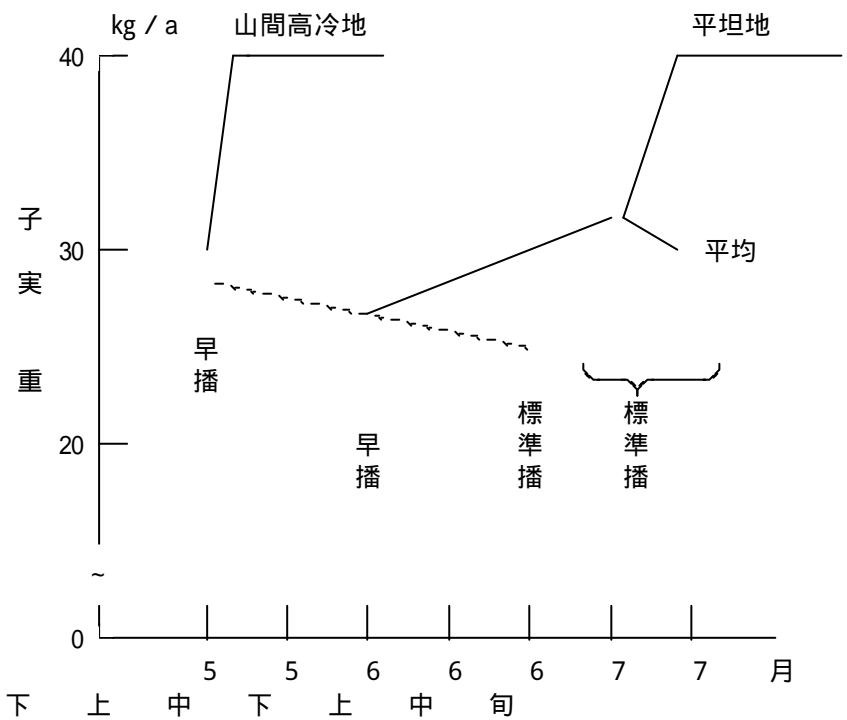


図2 フクユタカの播種期と収量